

NPO法人日本アレルギー友の会

「新薬を知ろう!」

ぜんそく・アトピー性皮膚炎 講演会とQ&A

11月15日(日) 12:30~16:00

東医健保会館ホール(JR「信濃町駅」より徒歩5分) **無料**

■講師紹介と患者への一言アドバイス■

「ぜんそく患者のための新型インフルエンザ対策」坂本芳雄先生(公立学校共済組合関東中央病院呼吸器・アレルギー内科部長) / 「アトピー性皮膚炎の患者向け一言アドバイス」江藤隆史先生(東京逓信病院皮膚科部長)

■講演■

- ①「成人重症アトピー性皮膚炎に対するシクロスポリン内服療法」五十嵐敦之先生(NTT 東日本関東病院 皮膚科部長)
- ②「成人喘息における新薬情報」秋山一男先生(独立行政法人国立病院機構相模原病院院長)

■申込み■電話またはFAX、メールにて受付。

TEL03-3634-0865 (祝祭日を除く毎週火・土曜日と11/9~11/14 11:00~16:00) FAX03-3634-0850 E-mail:j-allergy@nifty.com

セミナー情報

平成21年度厚生労働省免疫アレルギー疾患予防・治療研究推進事業

アレルギーシンポジウム in 仙台

「お母さん悩まないで! 知って欲しい食物アレルギーのすべて」



12月13日(日) 13:00~16:30 **無料**

仙台国際センター大会議室「橘」

(「仙台駅前」より市営バス「博物館・国際センター前」徒歩1分)

■講演■

- ①「知ってほしい食物アレルギーの基礎知識」森川 みき先生(森川小児科アレルギー科クリニック 副院長)
- ②「知ってほしいアトピー性皮膚炎と食物アレルギーの関係」赤澤 晃先生(国立成育医療センター 総合診療部小児期診療科 医長)
- ③「知ってほしい除去食、代替食」林 典子先生(独立法人 国立病院機構 相模原病院臨床研究センター 管理栄養士)

■パネルディスカッション■コーディネーター / 秋山一男先生(独立行政法人国立病院機構相模原病院院長・臨床研究センター長)、パネリスト / 森川 みき先生、赤澤 晃先生、林 典子先生、園部 まり子(NPO法人アレルギーを考える母の会代表)

■申込み■ホームページ「医療と健康のシンポジウム」  
<http://www.sympto.jp/>の申込みフォーム、又は、ホームページ内の FAX 申込み用紙から(財)日本予防医学協会内リウマチ・アレルギーシンポジウム Part1 事務局宛に FAX。

「第10回食物アレルギー研究会」

2010年2月13日(土) 昭和大学上條講堂

(東京都品川区・東急池上線・大井町線「旗の台駅」東口徒歩7分)

■詳細■「食物アレルギー研究会」ホームページに順次掲載予定 <http://foodallergy.jp/>

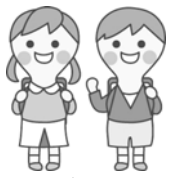
■事務局連絡先■国立病院機構相模原病院 臨床研究センターアレルギー性疾患研究部「第10回食物アレルギー研究会事務局」担当：今井孝成、林典子  
TEL: 042-742-8311(代表) FAX: 042-742-7990

E-mail: info@foodallergy.jp

公的信頼情報を活用しよう

■学校保健ポータルサイト

学校保健 <http://www.gakkohoken.jp/>



- ★「学校のアレルギー疾患に対する取り組みQ&A」アレルギー疾患用学校生活管理指導表やエピペンの取り扱いについてなど、保護者、学校職員の安心をサポートする28項目が10月よりUP。
- ★学校生活管理指導表(アレルギー疾患用) ダウンロード可

■環境再生保全機構の無償 new ツール

環境再生保全機構 <http://www.erca.go.jp/> >ぜん息などの情報館>サービスより取り寄せ可。

- ★「ぜん息悪化予防のための小児アトピー性皮膚炎ハンドブック」 A4冊子[HPにPDFあり]
- ★「ぜん息日誌」 男児用(しんかんせん) / 女児用(マイメロディ) / 大人用
- ★保健指導用「ZensokuABC~クリアーホルダー」①小児ぜん息の病態・治療②ぜん息日誌: アレルゲンの除去対策を③小児に用いられる主なぜん息の薬



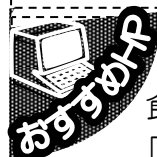
救急隊のエピネフリン使用ルールの検討開始。学校と消防機関の連携へ

消防庁

今年3月の厚労省の通知により、自己注射できるエピネフリンを携帯している患者について、救急救命士による投与が可能となった。このほど実際に救急救命士が運用する際のルール作りが始まり年内にはまとまる見通し。

検討会事務局はエピペンの取り扱いについて、

- ▼エピペンを処方されている児童がいる場合の学校と消防機関との情報共有などの連携
- ▼119番通報時に指示を求められた場合の助言の必要性
- ▼現場での全身状態の観察や気道確保などの処置の概要
- ▼アレルゲンとの接触可能性や既往歴、エピペン使用の有無などの聴取
- ▼本人や家族からエピペン使用を依頼された場合の実施者の優先順位(救急救命士、学校教諭など)などを論点としている。(株)ロハスメディアニュース6月15日配信より



食物アレルギー研究会

食物負荷試験実施施設一覧(外来・入院)が閲覧可。「食物アレルギーの診療の手引き2008」、「食物アレルギーの栄養指導の手引き2008」などがダウンロードできます! <http://foodallergy.jp/>

epipen.jp

エピペンの打ち方が動画で見られます。(マイラン製薬(株)運営サイト)



●アレルギー相談室のご案内●

かながわ県民センター15F 相談室①  
(横浜駅西口徒歩5分)

- 来所相談■毎月第4火曜日 10:00~12:00
- TEL相談■045-312-1121(相談室)
- FAX相談■045-312-6307(相談室)

来所・電話・FAXどちらでもお気軽に(相談無料)